

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472600436		
法人名	株式会社東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑利府	すみれユニット	
所在地	宮城郡利府町沢乙字寺下10-1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 22 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、出来ることはしていただきながら自立支援のもと生活支援を行っている。 毎食手作りで温かい食事を提供している。一人一人に寄り添いながら穏やかに過ごせるよう対応している。看取り時には、医療と連携しながら、不安のない静かな環境を作るよう配慮し、最後はご家族様と穏やかな時間を過ごしていただけるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは利府町中心部の幹線道路沿いにあり、寺院と畑に隣接している。周辺には住宅街や商業施設があり、東北新幹線が一望できる環境である。フロアの窓から見える新幹線の通過を楽しみにしている入居者もいる。目標達成計画に掲げた、町内会や地域の清掃ボランティアとの交流は、コロナ禍のため自粛しているが、交流の関係が途絶えないように、定期的に連絡を取り合っている。地域住民による野菜の差し入れや花壇の手入れは、今も続いている。職員は法人の運営理念に沿って入居者一人ひとりに寄り添い、認知症が進んでも穏やかな生活が送れるように、「生き甲斐づくり」を意識した支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎ苑利府 )「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関や休憩所、事務所などに掲示し共有し実践している。コロナ禍にあって地域とのつながりに関しては自粛している現状である。	職員間で話し合い、難しい言葉から分かり易い言葉で、皆に親しみやすい理念に見直し「やすらぎ苑理念」として、事務所に掲示し、職員間で共有している。「利用者や地域住民から信頼される介護」を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域とのつながりを持つような交流は休止中。掃除ボランティアも休止中。地域の方が野菜を持参してくれたり、花壇をきれいにさせていただいたりして継続中。	目標達成計画に掲げた、町内会長や地域住民の清掃ボランティア「ひまわり」との交流は、コロナ禍で自粛している。交流の関係継続のため、定期的に連絡を取り合い、花壇の手入れ等は、今も継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍なので、地域に出向いて話をしたりする機会は控えている。入居相談や包括の方々を通して話をする機会を持っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、会議は休止し、報告のみ、行っている。保健福祉課の方や包括の方々は、意見交換の域である。また、委員の方は電話でコロナ禍の話題中心に大変さを気遣っていただいている。	町職員や地域包括職員、町内会長、民生委員、防災リーダーに、2ヵ月毎に活動内容を書面で報告をしている。感染防止対策として面会や訪問を厳しく制限することを話し合った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、密に連絡という域ではないが、事業所の実情などは折々やり取りし協力をいただいている。	町担当課とは、ホームの入居状況の報告や入居希望者の情報、介護保険制度について相談をしている。地域包括センターから研修案内や認知症カフェの案内があり、電話やメールで連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的開催、身体拘束について話し合いを行っている。スピーチロックについては常に話題になるところであり、振り返りをしながら取り組んでいる。コロナ禍での状況なども話し合いの議題になっている。	3ヵ月毎に法人代表や山形、利府、古川の3事業所の管理者間で、リモートで身体拘束廃止委員会を開催している。会議の議事録は、定期的に勉強会での研修資料として活用している。「ちょっと待って」等の制止する声掛けは職員間で注意合っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため全員で学ぶ機会は控えているが、スタッフのケア対応を振り返り注意を払っている。排泄が繋がらない方の対応では本人の意図しないケア対応をするためスタッフの共有確認をしている。	身体拘束廃止委員会で高齢者虐待防止についても話し合っている。管理者は身体拘束や虐待の要因となる兆候を見逃さないよう気を配り、入居者との相性も考慮して、職員の精神的な負担軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍のため全員で学ぶ機会は控えている。日常のケアでは自立支援のもと、出来ることを見極め、生活リハビリとして活かしていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍のため、契約締結は玄関内での説明、ご家族との話は外で説明等を行い、理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の状況だが、ご家族の要望等を聞き、出来ることは行っている。例えば、コロナ禍で面会のご遠慮願っているが、会いたい希望をリモートなどで実践する工夫をしている。	家族の要望は面会希望が最も多い。玄関先でのガラス越し面会を基本としている。ガラス越し面会に、困惑する入居者やリモート面会で混乱する入居者には、家族は外で窓越し面会等、入居者本位の工夫をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍にあつて、職員と意見を話し合う機会は控えているが、職員と管理者での意見交換や代表者へのつながりは設けており、コロナ禍での行動などに反映させている。	職員は、管理者やリーダーに何時でも要望や意見を伝えられる環境にある。水道の蛇口の修理や消毒液等の補充などの要望に対応している。資格取得の費用負担や勤務シフト、希望休の取得に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間や休日、給与水準等条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にあつても、実務者研修や実践者研修、リーダー研修など働きながら学べる機会を作り、ステップアップ出来るように取り組んでいる。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、交流の機会は自粛しているが、同列の他事業所より職員が手伝いに来るなどして交流を図り、取り組んでいる。	同法人の山形や古川との事業所間での応援体制があり、職員の交流や介護の方法について意見交換をする機会がある。管理者研修で知り合った地区内のグループホームやデイサービス管理者との交流もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始時期は特に生活に馴染めるように職員の関わりの機会を多くしたり、また、ご家族も巻き込み情報を共有するなどして関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のため面会制限で不安なことも多くあることを受け、都度、様子を説明したり、動画で送るなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前の相談を考慮し、また、ご本人とお会いして「その時」の支援を考えるが、入居後慣れてからの支援も見据えてサービス対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にできることは行い、自立して出来ることはやっていただくなど、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため家族との面会は基本出来ないが、電話やリモート、動画を送るなどして家族の絆を大事に関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため馴染みの人や場所との関係継続には難しい面もあるが、特に、家族との馴染みの関係は途切れないように努めている。	趣味の編み物や刺し子、塗り絵等、入居者の集中出来ることを、継続して支援している。入居者家族が活用している携帯アプリのグループビデオ通話で、遠方の友人や親戚が参加して、リモート面会を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や居場所を変えた時の関わり合いを考慮し、その時々で利用者同士での関わり合いが出来るような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに亡くなった利用者のご家族がいまだに手づくり野菜を持参してくださっており、健康の話題など出ることあり、相談しあえる関係は出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、職員が利用者から話を聞いているが、認知症状の進んだ方にあつては、例えば好んで食べるものや、笑顔など表情から本人本位に検討している。	本人の経歴や日常の会話や表情から思いを把握している。入居者の「東京に帰りたい」という思いに、職員と一緒に電車で仙台駅まで出掛け、新幹線を見たり、駅で食事をして、ホームに戻る等の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りで伺えることは聞き、入居後も引き続き家族と連絡し、就寝時間など考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態により、その方にあつた一日の過ごし方が出来るように現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすため、家族から本人が大事にしていた本の提供や家族関係の話を聞くなど介護計画を作成、ケア対応している。	毎月のカンファレンスで意見を出し合い、計画の見直しをしている。家族の意向は書面や携帯アプリで確認している。ADLの低下で、入浴を清拭に変更した計画が、適切なケアでシャワー浴に繋がった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入、職員間で情報を共有しながら実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で休止しているが、理美容訪問や訪問パン販売の購入などサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自粛中。普段は自然が多いのでドライブによく出かけ楽しむ機会を作って楽しんでいる。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、決まった主治医が来苑。利用者と話しながら関係を築いている。	入居者全員が協力医「たんぼクリニック」の月2回の訪問診療を受診している。専門医の受診は家族が同行している。ホームでの入居者の健康状態を書面で伝え、受診結果は家族から聞いて記録している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護にて、職員が分からないことを相談、医師へつないでいただいたり、看護師が処置したりと支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、その病院の相談員との情報交換を行い、看護師からの説明もあるなど関係を維持している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの話はさせていただくが、家族によって受け取り方、考え方が異なるので、体調の変化に応じて折々話し合いながら急がずに方向性をすり合わせるように進めている。	入居時に「やすらぎ苑重度化(ターミナルケア)に関する指針」を本人、家族に説明し、同意を得ている。重度化の場合は段階的に家族や医師と話し合いをして方針を共有している。看取り対応にあたった夜勤職員には、管理者やリーダーの応援体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生についてはマニュアルを参照、また、医療との連携を踏まえて実践しているが、コロナ禍もあり、訓練までは控えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍にて限られた避難訓練ではあるが、定期的に行っている。地域との協力体制もお願いしている。	年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施している。地域住民の参加はなかったが、入居者の見守りを想定している。避難経路として隣接する畑の所有者の協力を得て、境界フェンスに避難用の門扉を設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について都度気付いたら、職員間で話題にして振り返りながら気を付けている。	声かけは名前に「さん付け」で、本人の要望で「ちゃん付け」の方もいる。居室への出入りは、不在時でも予め用件を伝え、本人の了承を得ている。入居者間のトラブル防止として、ドアは内鍵が施錠可能となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	焦らない、急がせないように配慮しながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れはあるが、入浴や昼寝や食事のタイミングなどその方の体調や意向に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きな方は1日に何回か着替えをしたり、たまにマニキュアなどつけたりして楽しめるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下能力や体力に合わせ、食事形態を工夫し食事を提供。利用者に手伝ってもらいながら食器洗い、お盆拭きをしてもらうと一緒に生活を送るよう支援している。	献立や調理は職員が担当し、手作りの料理を提供している。入居者もジャガイモやバナナの皮むき等の下拵え、味見や後片付けと一緒に参加している。行事食の赤飯や稲荷寿司、マグロ丼等が喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、状況を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、また、口腔衛生士の助言など受け、口腔ケア支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、排泄パターンを読みながら排泄自立に向けて支援している。	排泄チェック表を活用し、入居者毎の排泄パターンを把握して、トイレに誘導している。入居者は、日中はリハビリパンツとパッドを使用している。夜間は定時の見守りと声掛けでトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響をよく理解しており、排便が滞らないように、冷たい牛乳の提供や体に優しい下剤で対応し取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	声掛けをして、入浴のタイミングが合わないときにははずすなどして支援を行っている。	週2回、午後に入浴をしている。「温泉だったら入るけど」等と、入浴を拒否する入居者には、声掛けや時間、入浴剤を変える工夫をしている。脱衣所の暖房はファンヒーターを使用して浴室との温度差を少なくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて昼寝を入れた休息をとるなど、一人ひとりの状況に合わせた休息支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は常に目に職員がみられるようになり、職員からの症状報告により、看護師やいしへの相談で薬が変更になり、経過をみるなど、服薬支援の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事や家事手伝いでの役割を活かした支援、手づくりのおやつで皆で楽しんだり、塗り絵や簡単な工作、歌や紙芝居などで楽しまれている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、限られた空間での戸外となっている。駐車場や中庭、家族と通院等の戸外支援となっている。	天気の良い日はホームのベランダで外気浴や中庭で散歩を楽しんでいる。隣接する地域住民所有の畑の野菜やキウイ棚の果実が育つのを楽しみにしている。コロナ禍前は、多賀城のアヤメや松島海岸、加瀬沼の花見などに出かけていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状はお金を所持している方はいないが、必要性があれば支援できる体制にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話、手紙のやり取りまでは出来なくても、家族からの手紙を渡すなどして支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度管理、音や明るさには配慮し、庭の花をとってきて一緒に飾ったり、季節感を出すような飾りを作ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食堂と兼用のフロアは、テレビやソファが置かれ、入居者の寛ぎの場所となっている。南向きの窓から見える新幹線の通過を楽しみにしている入居者もいる。壁の掲示板には行事の記念写真が飾られ、小上がりにクリスマスツリー等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を所々において、一人の空間を過ごしたり、ソファでみんなと一緒に過ごせたり、それぞれに過ごせるような空間作りをしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やソファを配置したり、テレビを置いたり、居心地よく過ごせるよう家族と相談している。	エアコンやベッド、クローゼットはホームの備え付けとなっている。ライティングデスクやソファ、テレビ等、馴染みの物を持ち込んでいる。壁には家族の写真や塗り絵、折り紙などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示やカレンダーをいくつか表示しておいたり分かるような工夫をしている。玄関には出入りの時にセンサーが音を奏するので安全に自立して送れるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472600436		
法人名	株式会社東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑利府	あやめユニット	
所在地	宮城郡利府町沢乙字寺下10-1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 22 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、出来ることはしていただきながら自立支援のもと生活支援を行っている。食事は毎食手作りで提供し、利用者様より「おいしかった」と言っていたりなど、職員も楽しみながら共に過ごしている。利用者様一人一人の生活ペースを配慮し、緩やかに1日が流れるように配慮している。一緒に家事手伝いをさせていただいたり、レクで楽しんだり、ゆったり過ごしていただけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは利府町中心部の幹線道路沿いにあり、寺院と畑に隣接している。周辺には住宅街や商業施設があり、東北新幹線が一望できる環境である。フロアの窓から見える新幹線の通過を楽しみにしている入居者もいる。目標達成計画に掲げた、町内会や地域の清掃ボランティアとの交流は、コロナ禍のため自粛しているが、交流の関係が途絶えないように、定期的に連絡を取り合っている。地域住民による野菜の差し入れや花壇の手入れは、今も続いている。職員は法人の運営理念に沿って入居者一人ひとりに寄り添い、認知症が進んでも穏やかな生活が送れるように、「生き甲斐づくり」を意識した支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎ苑利府 )「ユニット名 あやめ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関や休憩所、事務所などに掲示し共有し実践している。コロナ禍にあって地域とのつながりに関しては自粛している現状である。	職員間で話し合い、難しい言葉から分かり易い言葉で、皆に親しみやすい理念に見直し「やすらぎ苑理念」として、事務所に掲示し、職員間で共有している。「利用者や地域住民から信頼される介護」を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域とのつながりを持つような交流は休止中。掃除ボランティアも休止中。地域の方が野菜を持参してくれたり、花壇をきれいにしていただいたりして継続中。	目標達成計画に掲げた、町内会長や地域住民の清掃ボランティア「ひまわり」との交流は、コロナ禍で自粛している。交流の関係継続のため、定期的に連絡を取り合い、花壇の手入れ等は、今も継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍なので、地域に出向いて話をしたりする機会は控えている。入居相談や包括の方々を通して話をする機会を持っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、会議は休止し、報告のみ、行っている。保健福祉課の方や包括の方々は、意見交換の域である。また、委員の方は電話でコロナ禍の話題中心に大変さを気遣っていただいている。	町職員や地域包括職員、町内会長、民生委員、防災リーダーに、2ヵ月毎に活動内容を書面で報告をしている。感染防止対策として面会や訪問を厳しく制限することを話し合った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、密に連絡という域ではないが、事業所の実情などは折々やり取りし協力をいただいている。	町担当課とは、ホームの入居状況の報告や入居希望者の情報、介護保険制度について相談をしている。地域包括センターから研修案内や認知症カフェの案内があり、電話やメールで連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的開催、身体拘束について話し合いを行っている。スピーチロックについては常に話題になるところであり、振り返りをしながら取り組んでいる。コロナ禍での状況なども話し合いの議題になっている。	3ヵ月毎に法人代表や山形、利府、古川の3事業所の管理者間で、リモートで身体拘束廃止委員会を開催している。会議の議事録は、定期的に勉強会での研修資料として活用している。「ちょっと待って」等の制止する声掛けは職員間で注意合っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため全員で学ぶ機会は控えているが、スタッフのケア対応を振り返り注意を払っている。排泄が繋がらない方の対応では本人の意図しないケア対応をするためスタッフの共有確認をしている。	身体拘束廃止委員会で高齢者虐待防止についても話し合っている。管理者は身体拘束や虐待の要因となる兆候を見逃さないよう気を配り、入居者との相性も考慮して、職員の精神的な負担軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍のため全員で学ぶ機会は控えている。日常のケアでは自立支援のもと、出来ることを見極め、生活リハビリとして活かしていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍のため、契約締結は玄関内での説明、ご家族との話は外で説明等を行い、理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の状況だが、ご家族の要望等を聞き、出来ることは行っている。例えば、コロナ禍で面会のご遠慮願っているが、会いたいお気持ちを実践する工夫をしているなど。	家族の要望は面会希望が最も多い。玄関先でのガラス越し面会を基本としている。ガラス越し面会に、困惑する入居者やリモート面会で混乱する入居者には、家族は外で窓越し面会等、入居者本位の工夫をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍にあつて、職員と意見を話し合う機会は控えているが、職員と管理者での意見交換や代表者へのつながりは設けており、コロナ禍での行動などに反映させている。	職員は、管理者やリーダーに何時でも要望や意見を伝えられる環境にある。水道の蛇口の修理や消毒液等の補充などの要望に対応している。資格取得の費用負担や勤務シフト、希望休の取得に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間や休日、給与水準等条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にあつても、実務者研修や実践者研修、リーダー研修など働きながら学べる機会を作り、ステップアップ出来るように取り組んでいる。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、交流の機会は自粛しているが、同列の他事業所より職員が手伝いに来るなどして交流を図り、取り組んでいる。	同法人の山形や古川との事業所間での応援体制があり、職員の交流や介護の方法について意見交換をする機会がある。管理者研修で知り合った地区内のグループホームやデイサービス管理者との交流もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始時期は特に生活に馴染めるように職員の関わりの機会を多くしたり、また、ご家族も巻き込み情報を共有するなどして関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のため面会制限で不安なことも多くあることを受け、都度、様子を説明したり、動画で送るなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前の相談を考慮し、また、ご本人とお会いして「その時」の支援を考えるが、入居後慣れてからの支援も見据えてサービス対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にできることは行い、自立して出来ることはやっていたりなど、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため家族との面会は基本出来ないが、電話やリモート、動画を送るなどして家族の絆を大事に築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため馴染みの人や場所との関係継続には難しいめんもあるが、特に、家族との馴染みの関係は途切れないように努めている。	趣味の編み物や刺し子、塗り絵等、入居者の集中出来ることを、継続して支援している。入居者家族が活用している携帯アプリのグループビデオ通話で、遠方の友人や親戚が参加して、リモート面会を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や居場所を変えた時の関わり合いを考慮し、その時々で利用者同士での関わり愛が出来るような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに亡くなった利用者のご家族がいまだに手づくり野菜を持参してくださっており、健康の話題など出ることもあり、相談しあえる関係は出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、職員が利用者から話を聞いているが、認知症状の進んだ方にあつては、例えば好んで食べるものや、笑顔など表情から本人本位に検討している。	本人の経歴や日常の会話や表情から思いを把握している。入居者の「東京に帰りたい」という思いに、職員と一緒に電車で仙台駅まで出掛け、新幹線を見たり、駅で食事をして、ホームに戻る等の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りで伺えることは聞き、入居後も引き続き家族と連絡し、就寝時間など考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態により、その方にあつた一日の過ごし方が出来るように現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすため、ご家族に相談、ご家族より本人にお願いしていただく形で、介護計画に反映している。	毎月のカンファレンスで意見を出し合い、計画の見直しをしている。家族の意向は書面や携帯アプリで確認している。ADLの低下で、入浴を清拭に変更した計画が、適切なケアでシャワー浴に繋がった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入、職員間で情報を共有しながら実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で休止しているが、理美容訪問や訪問パン販売の購入などサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自粛中。普段は自然が多いのでドライブによく出かけ楽しむ機会を作って楽しんでいる。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、決まった主治医が来苑。利用者と話しながら関係を築いている。	入居者全員が協力医「たんぼクリニック」の月2回の訪問診療を受診している。専門医の受診は家族が同行している。ホームでの入居者の健康状態を書面で伝え、受診結果は家族から聞いて記録している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護にて、職員が分からないことを相談、医師へつないでいただいたり、看護師が処置したりと支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、その病院の相談員との情報交換を行い、看護師からの説明もあるなど関係を維持している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの話はさせていただくが、家族によって受け取り方、考え方が異なるので、体調の変化に応じて折々話し合いながら急がずに方向性をすり合わせるように進めている。	入居時に「やすらぎ苑重度化(ターミナルケア)に関する指針」を本人、家族に説明し、同意を得ている。重度化の場合は段階的に家族や医師と話し合いをして方針を共有している。看取り対応にあたった夜勤職員には、管理者やリーダーの応援体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生についてはマニュアルを参照、また、医療との連携を踏まえて実践しているが、コロナ禍もあり、訓練までは控えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍にて限られた避難訓練ではあるが、定期的に行っている。地域との協力体制もお願いしている。	年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施している。地域住民の参加はなかったが、入居者の見守りを想定している。避難経路として隣接する畑の所有者の協力を得て、境界フェンスに避難用の門扉を設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について都度気付いたら、職員間で話題にして振り返りながら気を付けている。	声かけは名前に「さん付け」で、本人の要望で「ちゃん付け」の方もいる。居室への出入りは、不在時でも予め用件を伝え、本人の了承を得ている。入居者間のトラブル防止として、ドアは内鍵が施錠可能となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	焦らない、急がせないように配慮しながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れはあるが、入浴や昼寝や食事のタイミングなどその方の体調や意向に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きな方は1日に何回か着替えをしたり、たまにマニキュアなどつけたりして楽しめるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下能力や体力に合わせ、食事形態を工夫し食事を提供。利用者に手伝ってもらいながら食器洗い、お盆拭きをしてもらうと一緒に生活を送るよう支援している。	献立や調理は職員が担当し、手作りの料理を提供している。入居者もジャガイモやバナナの皮むき等の下拵え、味見や後片付けと一緒に参加している。行事食の赤飯や稲荷寿司、マグロ丼等が喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、状況を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、また、口腔衛生士の助言など受け、口腔ケア支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、排泄パターンを読みながら排泄自立に向けて支援している。	排泄チェック表を活用し、入居者毎の排泄パターンを把握して、トイレに誘導している。入居者は、日中はリハビリパンツとパッドを使用している。夜間は定時の見守りと声掛けでトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響をよく理解しており、排便が滞らないように、冷たい牛乳の提供や体に優しい下剤、漢方薬で対応し取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	声掛けをして、入浴のタイミングが合わないときにははずすなどして支援を行っている。	週2回、午後に入浴をしている。「温泉だったら入るけど」等と、入浴を拒否する入居者には、声掛けや時間、入浴剤を変える工夫をしている。脱衣所の暖房はファンヒーターを使用して浴室との温度差を少なくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて昼寝を入れた休息をとるなど、一人ひとりの状況に合わせた休息支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は常に目に職員がみられるようになり、職員からの症状報告により、看護師やいしへの相談で薬が変更になり、経過をみるなど、服薬支援の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事や家事手伝いでの役割を活かした支援、手づくりのおやつで皆で楽しんだり、塗り絵や簡単な工作、歌などで楽しませている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、限られた空間での戸外となっている。駐車場や中庭、家族と通院等の戸外支援となっている。	天気の良い日はホームのベランダで外気浴や中庭で散歩を楽しんでいる。隣接する地域住民所有の畑の野菜やキウイ棚の果実が育つのを楽しみにしている。コロナ禍前は、多賀城のアヤメや松島海岸、加瀬沼の花見などに出かけていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持出来る方はそのようにしており、お金持参で頼まれることもあるなど、その方に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度管理、音や明るさには配慮し、庭の花をとってきて一緒に飾ったり、季節感を出すような飾りを作ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食堂と兼用のフロアは、テレビやソファが置かれ、入居者の寛ぎの場所となっている。南向きの窓から見える新幹線の通過を楽しみにしている入居者もいる。壁の掲示板には行事の記念写真が飾られ、小上がりにクリスマスツリー等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を所々において、一人の空間を過ごしたり、ソファでみんなと一緒に過ごせたり、それぞれに過ごせるような空間作りをしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やソファを配置したり、テレビを置いたり、居心地よく過ごせるよう家族と相談している。	エアコンやベッド、クローゼットはホームの備え付けとなっている。ライティングデスクやソファ、テレビ等、馴染みの物を持ち込んでいる。壁には家族の写真や塗り絵、折り紙などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示やカレンダーをいくつか表示しておいたり分かるような工夫をしている。		